



第六十二回 秋田県消防大会



題 字
初代会長 松野盛吉
定 価 1部 5円
(購読料は年会費に含む)
発行人
〒010-0951
秋田市山王四丁目1番2号
秋田地方総合庁舎内
秋田県消防協会
会長 中泉松之助
電話 018-867-7320
FAX 018-863-5910
E-mail:ask@biscuit.ocn.ne.jp

印 刷
〒010-0951
秋田市山王7丁目5-29
株式会社 松原印刷社
電話 018-862-8760

第六十二回秋田県消防大会が七月七日、横手市の秋田ふるさと村「ドーム劇場」で、日本消防協会会長片山虎之助様、秋田県副知事堀井啓一様、秋田県議会副議長小田美恵子様など多数のご来賓を迎え、県内消防関係者六百名が参加して開催された。

大会は、殉職消防職・団員への黙とう、国歌斉唱で始まり、中泉松之助秋田県消防協会会長、開催地である横手市五十嵐忠悦市長のあいさつに続き、来賓の祝辞、消防庁長官メッセージの披露、平成二十一年度消防功労者(優良事業所)表彰、第五回消防団員意見発表会、同市の金澤八幡宮伝統掛唄保存会による掛唄、同市出身でアテネパラリンピックマラソン金メダリスト高橋勇市様の講演などを行い、さらに大会宣言を横手市大森消防団稲葉盛榮団長が宣言し、次回開催支部のあいさつを本荘由利支部を代表して由利本荘市消防団今野忠男副団長が行った後、秋田県消防の歌「われら あり」を斉唱し、終了した。

平成二十一年度全国統一防火標語

『消えるまで ゆっくり火の元 ならめっ子』

■中泉会長あいさつ(要旨)



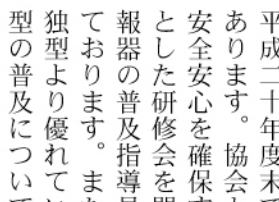
最近の災害の様相を見ますと、新型インフルエンザの世界的な流行など目に見えない、実態把握の困難な災害が多く発生しています。これまでの火災や自然災害とは様相の異なる新しいタイプの災害に対し、消防団活動として、国民保護の観点からどのような対応が必要なのか、国や県の動向等を注視しながら、検討していかなければならないものと考えております。

平成二十一年度事業計画について、その基本的な考え方を申し上げます。

先ず、会員会費制の成果に基づく事業の実施については、納入された会費は、消防団活動を助長すべき事業に充当するのが適当と考え、今年度は、新たに、小中学生が消防に親しみを持つてもらえるような広報グッズ「スギツチの消防バッチ」の作成や、「消防団活動支援事業準備引当金」等の基金を開設するほか、昨年度に引き続き、「女性消防団活動助成事業」等を実施し、消防団活動の一層の活性化に繋げてまいりたいと考えております。

次は、住宅用火災警報器の早期普及

■五十嵐横手市長あいさつ(要旨)



ここ横手市において、第六十二回秋田県消防大会が盛大に開催されますことを、開催市を代表し心より歓迎申し上げます。

さて、団員の高齢化や若者の消防団離れによる団員減少が続いていることは大変憂慮される事態であります。加えて、会社等に勤務している消防団員が年々増加しており、職場における消防団活動へ



についてですが、本県の推計普及率は平成二十年度末で十七%と低い水準にあります。協会としては、地域住民の安全安心を確保するため、団員を対象とした研修会を開催し、住宅用火災警報器の普及指導員を育成することとしております。また、その有効性が、単独型より優れていると認められる連動型の普及についても、新築住宅を対象に、秋田県市長会、町村会等と連携しながら設置促進に努めてまいりたいと考えております。

団員の皆様にはご理解を賜り、平成二十一年度事業に積極的に取り組んでいただきたいと願っております。

の理解と支援が必要不可欠となっております。当市においても事業所の理解促進のため「消防団協力事業所表示制度」を導入し、働きかけを推進しているところであります。

近年の災害は多様化、大規模化、広域化しており、消防団活動の範囲も自然災害に止まらず、国際的な脅威への対応など広範囲にわたっており、皆様方への期待はますます大きくなっております。さらには、地域コミュニティの醸成が課題となっており、地域の中心的役割を担っておられる消防団員の地域との結びつきにも、ご活躍が期待されているところであります。

今後においても、「自分たちの地域は自分たちで守る」という崇高な使命の下、地域における消防防災の中核として、災害に強く、安全で安心して暮らせる街づくりの実現に向け、一層の研鑽を積まれることをお願い申し上げます。



■片山日本消防協会長祝辞(要旨)

我が国の消防制度は施行されてから去年でちょうど六十年、人間で言えば還暦でございまして、この間にしっかりと我が国の地域社会に定着し、国民の皆さんから大変な賞賛を受けています。また、世界的にもボランティアの消防団と専門家の常備消防との連携がたいへん上手くいっています。私は世界のトップだと思っておりますが、それでは、我

が国の安心安全は百点満点、何の問題もないかと申しますとそういう訳にはなかなかいきません。火災というものはなかなか無くならない。また地震、台風、集中豪雨、土砂崩れ、高潮などの自然災害は忘れないうちにどつとやってくる。忘れた頃ではないんですね。さらに、北朝鮮のミサイル発射とか新型インフルエンザとか、想像できないようなことも危機管理としてはいろいろ起きてくる。これらにしっかりと対応するのが、消防の役目でございます。私はまだまだ消防を中心とした地域の防災力というものを強化する必要があると思っております。

常備消防の充実はもとよりでございますが、特に消防団員は昔と比べるとだいぶ数が減っております。今九十九万人を少し切っております。消防団は数が増えるから、是非消防団員の増加を図ってもらいたい。そのために、消防団協力事業所の指定をお願いしたり、女性消防団員を増やしていただくとかそういうことを今後共しかりやっていきたい。さらに婦人防火クラブやその他自主防災組織の裾野を広げていき、みんなで危機管理をやっていくという体制が必要であり、これからの大きな課題ではないかと思っております。

今回も消防団員の意見発表があるようですが、いろんな意見を言っていたら、是非みんなで、自分が住んでいる町や村を守っていくことをご確認賜れば、たいへん幸いだと思っております。

秋田県の安心安全は今日からさらに始まるのだというご認識のもと、今後

一層のご奮闘を賜りますように心からお願ひ申し上げます。

■堀井副知事祝辞(要旨)



本県の火災は昨年五百七十七件を数え、残念ながら三十八人の死者を出しており、特に、住宅火災による死亡者数は年々高まってきております。県としては、皆さんと共に防火に対する意識の高揚に努めることはもちろんのこと、住宅用火災警報器の普及が大変遅れていますので、その早期普及に一生涯懸命頑張っております。

住宅用火災警報器の設置にあたっては、単独型のみならず、本県のように住宅の広いところでは連動型の方がより有効と思われるので、連動型の普及にも全力をあげてまいります。一方、地域で消防団活動をして下さる方は大幅に減少しておりますので、県では、新たな消防団員の確保に向け機能別の消防団員制度の導入や消防団員が活動しやすい環境づくり、事業所の方から消防団に対する理解を得る運動などを進めてまいりますし、県や市町村職員の消防団への加入も勧めてまいります。

いずれにしろ、地域の自主防災組織の立ち上げや、あるいは非常に増えている高年齢の方々をどうやって災害等から守るかといった地域での安全安心システムの構築などへの取り組みと一緒に、消防団のあり方についても改めて見直していくことが大事と考え

ているところです。

この四月以降、ミサイルの問題、新型インフルエンザ等さまざまな危機管理に関する課題が顕在化してきてますけれども、消防団員の皆様におかれましては、地域のことは自分たちで守るといふ気概を持っていただき、尚一層地域の安全安心を守るためにご奮闘いただければと思います。

本日はこの後、従業員の消防団活動を積極的に支援をしていただける優良事業所を表彰させていただきましたが、受賞者の皆様には今後とも変わらぬ御支援を賜りますようお願い申し上げます。

■小田県議会副議長祝辞(要旨)



最近の地球温暖化の影響ででしょうか、ゲリラ豪雨災害など過去には見られなかった自然災害が頻繁に発生するようになり、常備消防、消防団、地域住民が一体となった防災体制がより必要になってきております。

地域に密着し、住民の身近で最も頼りになる消防団ではありますが、人々のライフスタイルの変化や地域のつながりの希薄化でしょうか、消防団員数が減減傾向にあります。我が秋田県においても、団員数が二万人を割り込み、地域の安全・安心がこれからも守られていくのか不安に思う心もあります。しかしながら、このような危機的状況の中にあつて、消防団員の皆様お一人お一人の献身的な活動や、入団促進

を

キャンペーン等により女性団員が徐々に増えてきているなど、防災力の担い手の裾野が広がる傾向にあります。

今、大会に参加させていただき、皆様方の消防団に対する熱い思いを肌で感じ、これからも県民が真に求める安全・安心な生活が守られていくものと誠に心強く思いました。

県議会といたしまして、皆様方の活動の充実強化につきまして、引き続き関係者に現状を訴え、積極的な議論を行うてまいりたいと思っておりますので、皆様方におかれまして、なお一層のご尽力をお願いいたします。

■大会宣言

第六十二回秋田県消防大会が、ここ「豊かな自然・豊かな心・夢あふれる田園都市」横手市において開催され、県内消防関係者が一堂に会して、消防人としての活動や役割を再認識できたことは、たいへん有意義でありました。

前触れもなく襲ってくる自然災害や複雑多様化する火災から住民の生命・財産を守ること、国家的緊急事態にあつては迅速・安全に避難誘導することが私たちに課せられた使命であります。

「自分たちの町は自分たちで守る」という先人から受け継いだ崇高な消防精神のもと、地域住民の安全・安心な暮らしの確保をめざし、災害に強いまちづくりのため、「絆」を深め、消防人としての使命達成に邁進することをここに宣言します。

平成二十一年七月七日
第六十二回秋田県消防大会

■平成二十一年度優良事業所表彰
知事賞受賞団体

笹産業有限会社

代表取締役 笹 剛三
男鹿市船川港船川

これまでも多数の消防団員が在職し、現在は四名が活動している。災害時には自社の車輛等を提供している。

おものがわ農業協同組合

代表理事組合長 福岡 正樹
横手市雄物川町沼館

三十三名が消防団員として活動している。災害時には、団員職員を災害現場に出勤させる環境が整っている。



株式会社西山製作所秋田工場

取締役工場長 佐々木節男
横手市雄物川町谷地新田

十八名の消防団員が在職しているほか、消防団OBの社員も多く在職しており、災害時にはOB団員も協力できる。

株式会社宮腰デジタルシステムズ

取締役工場長 宇野 建彦
横手市大雄字高津野

二十六名の消防団員が在職し、災害時には地元分団に出勤させているほか、自衛消防訓練を毎年実施している。

■第五回消防団員意見発表会

この意見発表会は、日頃の消防団活動を通じて感じた事柄や経験した事例などから、消防活動のあるべき姿や消防人としての役割を再確認し、これからの活動をより充実したものにするを目的に開催している。

今回も各支部の代表九名の団員が堂々と意見を発表されました。発表者とテーマは次の通り。

なお、発表された意見は、「消防秋田」九月十五日号から順次紹介する。



発表者	消防団	階 級	テ ー マ
柴田 和久	横手市十文字	団 員	絆
石成 為治	湯 沢 市	分 団 長	分団長として
柏木 義行	鹿 角 市	団 員	兄弟で消防団員
藤田 久悦	北 秋 田 市	分 団 長	みんなに送信
市川 裕太	藤 里 町	団 員	地域につながりと安心を…
齊藤 隆男	八 郎 潟 町	副分団長	4,745日の挑戦と理解
足利 幸雄	秋 田 市	分 団 長	地域消防のあり方と水防訓練について
那須 勝弘	由利本荘市	分 団 長	災害と訓練
鳥羽 武治	大 仙 市	支 団 長	小学校の時の大火

トーハツ消防ポンプ
モリタ自動車ポンプ
消防被服全般
秋 田 県 代 理 店

総合防災設備センター

株式会社 高 義 商 会

(営業種目)

- トーハツ小型動力ポンプ
- モリタ自動車ポンプ
- ジェットホース
- 消防被服全般
- 火災報知器各種
- 消 火 器 各 種

〒012-0105 本社 湯沢市川連町字万九郎屋布32
☎(0183)(42)2125
〒012-0844 湯沢市田町 ☎(0183)(73)2588

株式会社 夕 カ ギ

秋田県横手市寿町1番28号
TEL (0182)(32)3880

(営業種目)

- 日本機械自動車ポンプ
- トーハツポンプ
- 各種消防機械器具
- 消防設備保守点検
- キンパイホース
- シパウラポンプ
- 各種消火器

ホームページ <http://www17.ocn.ne.jp/~takagi/>
E-mail ykttkg@jasmine.ocn.ne.jp

東北地区消防連絡協議会



平成二十一年度(第六十一回)東北地区消防連絡協議会が七月九日、本県の仙北市田沢湖「ブラザホテル山麓荘」にて、新潟県を含む東北七県の消防協会長、副会長など六十

名が参加し開催された。協議会は、中泉秋田県消防協会長のあいさつ、秋田県知事(代理) 秋田県知事公室次長大石勤様、仙北市市長石黒直次様の祝辞の後、各県消防協会から提出された議題が審議され、総務省消防庁、日本消防協会等への要望事項七件を決定したほか、三件について情報交換が行われた。

【新消防団長紹介】
男鹿市消防団



ささき ぜんこう
佐々木 善 廣
昭和十七年六月二十二日生(六十七歳)
佐々木鉄工所(自営業)
昭和四十六年一月一日

入団
平成十八年四月一日 副団長
平成二十一年七月一日 団長

■国等への要望事項

- ① 全国消防操法大会開催場所の固定化
- ② 女性消防団員制服の統一
- ③ 有事の際の消防団員の携帯電話優先
- ④ 消防団員確保のための報酬増額
- ⑤ 公益法人化に係る相談体制の整備
- ⑥ 連動型住宅用火災警報器の設置推進
- ⑦ 消防殉職者賞じゅつ金制度の改正

■情報交換

① 機能別消防分団・団員の活動状況
各協会に設置されており、三十消防団に七百四十一人(うち女性百九十二人)が配属され、予防広報や災害時の後方支援、ラッパ隊などの活動を行っている。

ユニークなものとしては、気仙沼市消防団のバイク隊、鹿角市消防団のスノーモービル隊がある。

② 全国女性消防操法大会への選出方法
東北地区では、次のような方法で出場隊を選出している。

- 支部・地区持回り
- 三協会 出場希望により決定
- 二協会 特定の消防団に依頼
- 一協会 理事会で推薦
- 一協会

③ 消防団活動協力事業所への優遇措置
「消防団協力事業所表示制度」を導入している市町村は各県に見られるが、「事業税等県税の減免制度」については、一協会が県当局への要望を検討している状況にある。
なお、公共工事の入札に関する優遇制度は、一県と一部の市ですでに実施しており、現在検討中の県・市町村も見られる。

支部情報アラカルト

女性機関員大活躍

|| 鹿角支部 ||



去る七月五日に開催された、「第六十一回鹿角支部消防訓練大会」において、ポンプ車操法の部に、女性消防団員が機関員として出場しました。昨年六月に入団、機関員として訓練を重ねてい

ました。実際の火災現場へ出動した際に「何をしたらいいかわからず、ただ立って見ていただけ。現場から戻った後、情けない自分に腹がたつた。」(本人談)この悔しさから、本大会の機関員に自ら志願。一月以上におよぶ早朝五時からの訓練を積み、大会史上初の女性消防団員の出場を果たしました。操法では、他団の男性機関員と全く遜色の無い見事な機関員ぶりを発揮しました。
全国的に消防団員不足が大きな問題となっており、鹿角市では、平成十八年に「市民を守る魅力ある消防団づくり」を策定。その中から誕生した女性消防団員十八名が様々な分野で活躍し、「魅力ある消防団」の一翼を担っています。

(情報提供 || 鹿角支部)



地域の防災、災害対策に貢献!

消 防
ポンプ自動車
小型ポンプ
ホース

設 備
火災報知器
スプリンクラー
消火器

猿田興業株式会社

秋田市山王六丁目10番9号 TEL 018 (863) 1551(代)
猿田興業ビル7F FAX 018 (824) 3651

森田ポンプ ラビットポンプ
桜ホース・ソフト吸管 消防被服一式
各種消火器 消防機器一式

株式会社 協 立
株式会社 能代消防センター

〒016-0846 能代市栄町12の3
TEL (0185) (52)6361
(52)6494